

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 26 日 作成
20年度決算把握後平成 21 年 6 月 30 日 作成

事務事業名		認知症予防プログラム事業			<input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト 関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断 課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革 プラン関連		
総合 計画 体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	健康福祉部	課長名 後藤博康		
	施策	16	高齢者・障害者の自立促進と社会参加		所属課	高齢者支援課	担当者名 安武志穂		
	基本事業	49	高齢者の介護予防の充実		所属班	包括支援センター班	(内線) 2118		
法令根拠					介護保険法第115条の44				
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	<input type="checkbox"/> 20年度で終了	<input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	6
	30	11	1	2	11267			コスト削減優先度評価結果	—
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 19 年度)		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)				
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)									
【事業の内容】 認知症の予防が必要な高齢者に対し、くもん式学習法による脳教室(毎日の生活の中で読み書き、計算を習慣化させる)により認知症を予防し、脳の健康を維持する。 【業務の流れ】 サポーターを確保し、週1回6ヶ月の教室を開催。 【主な予算費目】委託料									

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 特定高齢者として区別せず、教室参加を希望される高齢者を対象として脳の健康を維持するよう支援を行った。	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 20年度と同じ
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 教室への参加を希望する高齢者	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) ア 脳の健康維持を希望する高齢者 人 イ 脳の健康教室開催回数 回
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 脳の健康教室を実施し、認知症予防の支援を行う。	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ア 参加希望する高齢者 人 イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 健康である	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ア 脳の健康が維持された高齢者の割合 % イ ⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) ア 高齢者に占める特定高齢者の割合 % イ

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度	
投入量	事業費	国庫支出金	千円		200	159	154	152	175	200	総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限定 複数 年度 の み 記 載) 目 標 合 計 値 画 22 年 度
		都道府県支出金	千円		100	79	77	77	87	100	
		地方債	千円								
		その他	千円		400	318	307	305	350	400	
		繰入金	千円		100	79	77	76	88	100	
	一般財源	千円									
	(A) 事業費計	千円		0	800	635	610	700	800	0	
	うち指定経費	千円									
	うち時間外、特殊勤務手当	千円									
	人件費	正規職員従事人数	人		2	2	3	2	2	2	
	延べ業務時間	時間		60	70	69	80	90	90		
(B)人件費計	千円		0	239	279	275	318	358	358		
トータルコスト(A)+(B)	千円		0	1,039	914	890	928	1,058	1,158	0	
活動指標	ア 人 イ 回			211	300	240	320	350	370		
対象指標	ア 人 イ 人			24	24	24	24	24	24		
成果指標	ア % イ %			5	13	5	6	8	10		
上位成果指標	ア % イ %			4.96	3	4.63	3	3	3		

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

- ① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
加齢とともに認知症高齢者は増加する。(85歳以上では4人に1人の割合で認知症がある。という統計資料あり)
元気なうちから、認知症予防を始める必要があることから実施している。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
介護予防の観点から、詳細な高齢者の指導が必要になってきた。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
教室参加者、運営サポーターからは、継続して実施して欲しいとの要望あり。

事務事業名	認知症予防プログラム事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	--------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】⇒ 認知症予防を図ることにより、元気なまちづくりという上位成果に結びつくことであり妥当。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】⇒ 介護予防を図ることであり妥当である
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】⇒ 平成20年度からは特定高齢者と限定せず参加希望する高齢者を対象としており妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 参加者が少ない。原因として、開催場所までの交通機関が考えられる。送迎という方法も検討課題のひとつである。平成20年度から特定高齢者と限定しないで、参加に積極的な高齢者を受け入れた。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】⇒ 認知症予防という施策がなくなることになる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 類似事業はない。 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 参加者が少ないことにより一人当たり費用としては高額であるが、教室自体の費用は最小限で実施している。参加者を増やすことにより、一人当たり費用も減少する。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ アウトソーシングしている。必要最小限度の人数により実施している。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 参加者には教材代、保険料等を負担して貰っており公平・公正だと考える。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 有効性については、事業参加者が少ない。原因として開催場所までの交通機関が考えられる。送迎という方法も検討課題のひとつである。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																							
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	① 教室参加者の拡大。 ② 地域で行っているサロン等への普及(指導者、サポーターの確保が必要)																							
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3" style="text-align: center;">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: center;">削減</td> <td style="text-align: center;">維持</td> <td style="text-align: center;">増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl;">成果</td> <td style="text-align: center;">向上</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上	○																						
	維持																							
	低下																							

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
事業効果の測定がむずかしい。現在実施している『くもん式学習法』の調査研究では成果が出ている。という結果がでているが、数値としての効果は未定。

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	5	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	8	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)